

データあり

平成30年7月2日

市政記者クラブ 様

東 山 総 合 公 園
担当 動物園 茶谷・江口
管 理 課 岩田・渡邊
電話 782-2115

高病原性鳥インフルエンザに感染したにもかかわらず 生き延びたコクチョウとマガモを再び公開します

東山動植物園の古代池に、鳥インフルエンザ感染防止に対応した新しい鳥類展示施設が完成しました。つきましては、高病原性鳥インフルエンザに感染したにもかかわらず生き延びた奇跡の水鳥とも言える、2羽の鳥（コクチョウとマガモ）を下記のとおり再び公開しますので、お知らせします。

記

1 再開日時等

(1) 日時

平成30年7月5日（木）10時30分

(2) 場所

動物園本園 古代池

(3) 当日の流れ

- ・動物園長あいさつ
- ・飼育担当者によるコクチョウとマガモの放鳥

2 公開する鳥

(1) 個体

- ・コクチョウ メス 34歳（東山動植物園生まれ）
- ・マガモ オス 7歳（神戸動物王国から来園）

(2) 特色

このコクチョウとマガモは、平成28年12月に東山動植物園内で高病原性鳥インフルエンザが発生した際、感染したものの発症することなく生き延びた鳥たちです。

動物園で高病原性鳥インフルエンザの感染が確認されたにもかかわらず、その後、健康を取り戻して復帰した鳥は、日本国内では例がありません。

3 展示施設

東山動植物園で発生した高病原性鳥インフルエンザは、ウイルスを持った渡り鳥が飛来し、飼育している鳥と接触して感染したものと考えられます。新しい展示施設では、ネットで渡り鳥の侵入を防ぐとともに、とくに観覧部分には視認性の優れたワイヤー素材を使用しました。さらに、2羽の特色をわかりやすく解説した表示も設置します。

【写真】



コクチョウ



マガモ

古代池の新しい鳥類展示施設



【案内図】

